

## 【ワークショップ『紙芝居でラーニング』】

### 日本語の授業での紙芝居の活用法を実践的に学ぶ講座

講師 紙芝居 st 片岡(礪波)由里子先生

#### 紙芝居でラーニングって？

紙芝居でラーニングは紙芝居を使って日本語を使えるようにする言葉の指導法の一つです。

日本語教師であり紙芝居 stI (かみしばいスト) の片岡 (礪波) 由里子先生が、日本語の授業をする過程で紙芝居のツールとしての有効性に気づき、「紙芝居でラーニング」を考案し実践していらっしゃいます。

紙芝居でラーニングの実際を体験していただき、日本中、世界中でことばの教育に紙芝居の活用が広がることを願っています。

主催 日本語で楽しくつながる悠々人

下記の要領で紙芝居を自在に扱える紙芝居 st を目指していただくワークショップを開催します。

紙芝居でラーニングは紙芝居がキーとなりますが、ただ、紙芝居を使えばいいというものではありません。紙芝居を授業で使う側にも、学習者を巻き込むストラテジーが求められます。

本講座では、紙芝居でラーニングに関心を持ち、言葉の指導に使ってみたいと考えている方々と一緒に考えていきます。

ご参加お待ちしております。

### 【ワークショップⅠ ことばの教師のための紙芝居のトリセツ】

キーワード 自己研鑽

内容 紙芝居を理解すること・授業での使い方・紙芝居の見せ方・紙芝居の語り方・紙芝居の選び方など。

3回シリーズ 2022年1月16日・30日・2月13日（日曜日） 14:00～16:00

申し込み締め切り 1月11日（火）

募集人数 8名

参加費 13,000円（税込）

### 【ワークショップⅡ 紙芝居stに向けて】

キーワード 本格的に紙芝居を作ってみる

内容 文法知識の範囲を限定し、紙芝居を制作します。その過程で学習者の心理などを体験・紙芝居制作の楽しさ、難しさ、達成感を味わいます。制作した紙芝居のお披露目の会をします。

3回シリーズ 2022年2月27日・3月13日・27日（日曜日） 14:00～16:00

申し込み締め切り 2月22日（火）

募集人数 8名

作成した紙芝居のお披露目会 12月18日（土）予定

参加費 13,000円（税込）

\* 参加費 ワークショップⅠ・Ⅱまとめてお支払いの場合通常26,000円を第1期特別料金24,000円（税込）とします。

\* ワークショップⅠ・Ⅱとも悠々人の神田神保町で実施を予定です。講師の希望もあり、対面での授業形態を重視します。＜新型コロナ感染状況などにより、開催日時につき相談を申し上げます。＞

\* 申込先 [nihongo@yu-yu-jin.com](mailto:nihongo@yu-yu-jin.com)

片岡先生のホームページにも詳細を掲載します。

## 紙芝居 st 片岡(礪波)由里子先生 プロフィール

1987 年より日本語教師。独創性あふれる授業は学習者に好評

2013 年より紙芝居を取り入れた授業を実践。

出版 紙芝居「びんぼーびんぼうだいはんじょう」(2021)

一般財団法人文民教育協会子どもの文化研究所発行

受賞歴 地域社会と留学生をつないだイベントが 2016 年ちばコラボ大賞(県知事賞)

留学生との手作り紙芝居制作では、

富山紙芝居コンクール第 12 回(2019)国際貢献賞

富山紙芝居コンクール第 13 回(2020)審査員賞

自身の紙芝居も紙芝居文化推進協議会手作り紙芝居コンクールで数々の賞を受賞

オリジナル作品は You Tube「となみん紙芝居」で公開している。

ホームページ

<https://sites.google.com/view/kamishibai1073/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

## 「紙芝居でラーニング」を初めて聞く方に

紙芝居でラーニングで何が起こるのでしょうか

紙芝居を多様な切り口で活用することで、目の前にいる学習者が、日本語を習って覚える人から、自ら使いたいときに、使いたい日本語を自然に使える人に変わります。自分ごととして日本語を使ってみたいと思うようになり、第一言語を使うように日本語が使えるように変わります。まさしく、使いながら使えるようになるが実現します。

紙芝居というツールを媒介にして、教室の中で縮こまっていたような留学生から日本語の社会の一員としてデビューすることが叶います。

日本語の授業では、会話の練習として、対話例などを使い覚えさせたりしますが、それは、代入練習のような練習に終わってしまうことがあります。その対話例を紙芝居にすると、その登場人物の言葉に息が吹き込まれ、生き生きとしてきます。頭上を通り越していた言葉が、心に響くようになります。

紙芝居の語り手になったら、登場人物をイメージし、登場人物のそのときの心情・おかれている状況などを想像し、相手に自分の持ったイメージが伝わるように伝えたいくなります。どのように言ったらいいのかを考えます。紙芝居を語ることで、登場人物として、生きた発話をする大切さに気づきます。

紙芝居を作るという過程では、授業についていくだけの自分ではなく、自分として、自分の「想い」を自分の言葉で伝えたいことに気づくことになります。言葉を使いたくなれば、双方向の言葉のやりとり、インタラクションが始まり、コミュニケーション能力が高まります。

インタラクションに参加する中で、[通じた][わかってもらった]という体験をし、学生たちは日本語を使うことに自信を持つようになります。しかし、実は同時に[通じなかった][わかってもらえなかった]という経験もします。また、その中で、表現力の未熟さに気づくことにもなります。こういったことに対する問題解決の対処法についても習得できます。

クラスでのインタラクションの体験は、クラス外の実社会で生活をする上でいかされ、目標言語での意思伝達がよりスムーズになっていきます。

紙芝居でラーニング！はおすすめです！日本語の使用者としての学習者の成長を見ることが出来ますし、ことばは「想い」を伝えるためにあることを実感できます。片岡先生の言葉を借りれば「学習者が変わる・教師も変わる」ということになります。

紙芝居でラーニングをことばの指導で使ってみませんか。

日本語で楽しくつながる悠々人  
山田 あき子